

授業科目 保健統計学

【担当教員名】 遠藤 和男		対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・看護
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：G10】 <概要> 保健・医療分野において用いられている独特の用語や定義を理解し、卒業研究や卒後現場でも応用できる統計学の方法を学習する。医療の現場でも重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎についての修得を目指す。 <一般目標：G10> 証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. コンピュータ学習(CAD)に積極的に参加する。 4. 正しい統計学的な検定方法を選択できる。 5. 適用した検定結果について正しく判断できる。 6. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	データの代表値、散布度について学ぶ。		2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
2	度数分布表及びヒストグラムの描き方を演習する。		2,3	演習(助手またはATが応援)、担当：遠藤 和男 他	
3	統計学的な検定の手順及び基本的な統計分布の意味を学ぶ。		1	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
4	2群の平均値の比較について様々な方法を演習する。		3-6	演習(助手またはATが応援)、担当：遠藤 和男 他	
5	保健衛生の指標及び率の調整方法について学ぶ。		1	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
6	年齢調整法のうち、標準化死亡比を用いて演習する。		3-6	演習(助手またはATが応援)、担当：遠藤 和男 他	
7	疫学研究のさまざまな型と実際に用いられる指標について学ぶ。		2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
8	後向き調査の手法を用いて、食中毒の原因解明について演習する。		3-6	演習(助手またはATが応援)、担当：遠藤 和男 他	
9	記述疫学の方法とアンケート調査の実際について学ぶ。		1,2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
10	実際に調査、集計された結果を用いて、分析を行う。		3-6	演習(助手またはATが応援)、担当：遠藤 和男 他	
11	地域相関研究の考え方、相関係数の意義について学ぶ。		1,2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
12	相関係数を求め、地域相関の資料を用いて演習する。		3-6	演習(助手またはATが応援)、担当：遠藤 和男 他	
13	スクリーニングの基礎である感度及び特異度の意味を学ぶ。		1,2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
14	スクリーニングの各指標の変化について演習する。		3-6	演習(助手またはATが応援)、担当：遠藤 和男 他	
15	まとめ(試験対策について)		1-6	講義、担当：遠藤 和男	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		保健統計テキスト	遠藤和男	考古堂	2008・2,800円+税
参考書					
その他の資料		統計数値表などは、必要に応じて配布する。 講義の際にはPptの資料を配布するので、ノート代わりとして活用のこと。			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
1. 奇数回目の最後に小テストを実施する。(連続の場合には前半) 2. 偶数回目にはレポートを提出してもらう。(連続の場合には後半) 3. 筆記試験結果に1、2の出席を考慮して総合的に評価する。			※高校の数学B(3)統計とコンピュータの「イ. 資料の分析」の所に、代表値、分散、標準偏差が載っています。 数学が弱い場合、最低前記について「学習支援センター」で復習しないと、第1回目から確実に落ちこぼれます! 「証拠に基づく医療」の基本であり、臨地実習前に必須の考え方ですし、卒論でも応用できる技法が含まれます。 *難しいですが、現場ではこれ以上のレベルが求められているのです! 必要最低限の知識は覚えること!		